

# 「大草原！わんぱく親子塾」

- 【主催】 国立阿蘇青少年交流の家  
【共催】 熊本県あしきた青少年の家  
【後援】 熊本県教育委員会・熊本市教育委員会・大津町教育委員会  
菊陽町教育委員会・阿蘇市教育委員会
- 【期間】 【夏編】 平成23年7月9日(土)～7月10日(日) 1泊2日  
【海編】 平成23年9月3日(土)～9月4日(日) 1泊2日  
平成23年9月10日(土)～9月11日(日) 1泊2日  
【秋編】 平成23年10月1日(土)～10月2日(日) 1泊2日
- 【実施場所】 国立阿蘇青少年交流の家及びその周辺、熊本県立あしきた青少年の家
- 【参加者】 【夏編】 保護者40名、幼児39名  
小学生11名、ボランティア22名  
計112名  
【海編】 保護者59名、幼児49名  
小学生16名、ボランティア16名  
計140名  
【秋編】 保護者39名、幼児37名、  
小学生11名、ボランティア13名  
計100名



秋編での収穫祭

## 【検討委員会委員】

- |                         |         |
|-------------------------|---------|
| 福岡教育大学 名誉教授             | 横山 正幸 氏 |
| 熊本県生涯学習推進センター 審議員       | 上杉奈緒子 氏 |
| 熊本県立あしきた青少年の家 所長        | 島田 直孝 氏 |
| 九州大谷短期大学 准教授            | 末寄 雅美 氏 |
| 九州ルーテル学院大学 准教授          | 井崎 美代 氏 |
| 阿蘇市教育委員会 教育課総務係長        | 渡邊 和代 氏 |
| 熊本市大江まちづくり交流室・大江公民館 副主任 | 吉村るり子 氏 |
| 阿蘇中央幼稚園 園長              | 山本由紀子 氏 |
- 【講師】 【夏編】 純真短期大学 特任教授 正平 辰男 氏  
【秋編】 タレント 長船なお美 氏

## 1 趣 旨

子どもたちの社会性や豊かな人間性の育成を図る上で低年齢時に自然体験・生活体験・交流体験等の機会を提供することが重要である。そこで、幼児期のころから様々な体験活動を経験させるとともに、保護者に低年齢時に体験活動を提供することの重要性を理解していただくことを目的とする。

## 2 目 標

- 幼児に発達段階に応じた自然体験や生活体験を経験させる。
- 保護者に幼児期のころから自然体験や生活体験・交流体験を多く経験させることの重要性を理解させる。



## 3 事業展開

### (1) 研修プログラム

#### 【夏 編】

| 日 程        | 午前                                      | 午後                             | 夜                                    |
|------------|-----------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------------|
| 7 / 9 (土)  | 10:00受付 ○開会式<br>○アイスブレイキング              | ○テント設営<br>○農業体験<br>* トウモロコシ種まき | ○野外調理<br>○交流会 (保護者)<br>○ナイトハイク (子ども) |
| 7 / 10 (日) | ○草原ハイク (子ども)<br>講演 (保護者)<br>○閉会式 11:30~ |                                |                                      |

#### 【海 編】

| 日 程                     | 午前              | 午後                                  | 夜                      |
|-------------------------|-----------------|-------------------------------------|------------------------|
| 9 / 3 (土)<br>9 / 10 (土) |                 | 12:30受付 ○開会式<br>○施設ウォークラリー<br>○海浜活動 | ○キャンプファイヤー<br>○本の読み聞かせ |
| 9 / 4 (日)<br>9 / 11 (日) | ○地引網体験<br>○野外調理 | ○野外調理<br>○閉会式 13:30                 |                        |

#### 【秋 編】

| 日 程        | 午前                                             | 午後                          | 夜                   |
|------------|------------------------------------------------|-----------------------------|---------------------|
| 10 / 1 (土) | 9:00受付<br>○自然散策 (南阿蘇方面)                        | ○自然散策 (南阿蘇方面)<br>○農業体験 (収穫) | ○クラフト活動<br>○本の読み聞かせ |
| 10 / 2 (日) | ○草原オリエンテーリング (子ども)<br>○講演 (保護者)<br>○野外調理 (収穫祭) | ○野外調理 (収穫祭)<br>○閉会式 13:30   |                     |

## (2) 目標達成のための工夫

### ① 検討委員会の実施

| 回 | 開催期日  | 主 な 内 容                  |
|---|-------|--------------------------|
| 1 | 5月24日 | プログラム内容や評価・普及方法の検討       |
| 2 | 2月3日  | 今年度の事業内容の報告と成果と課題についての検討 |

### ② 親子で参加できるプログラムの工夫

#### ア 保護者向きの講演

子どもと大人を分けて行うプログラムを取り入れ、保護者には講演を取り入れた。夏編では、長年子どもたちの通学合宿に取り組んでこられた正平氏を招いた。また、秋編では、自ら子育て奮闘中である長船氏を招いた。お二人に日頃の実践や経験をとおした講演をしていただき、幼児期のころから自然体験活動等を行うことの重要性や子どもとの関わり方について理解していただいた。

#### イ 子どもプログラムの開発

夏編では、草原の中に点在しているカードを見つけるオリエンテーリングを計画し、途中では草原に放牧されている牛とのふれ合いを行った。秋編では、草原に様々な遊びを体験できるブースを設けて遊びリンピックを行った。また、寝る前には本の読み聞かせを行った。

#### ウ 大人も楽しめるプログラムの開発

夏編では、簡単に楽しめるプチキャンプとテント設営や野外調理など保護者（特に父親）の活躍の場を取り入れることをテーマの一つとした。また、秋編では、南阿蘇での自然散策を取り入れたり、そこで見つけた木の実を使ってのクラフト活動を取り入れたりして、大人も子どもと一緒に楽しみながら活動できるように工夫した。



#### エ 保護者同士で交流できる場の設定

野外調理やテント設営などのグループ活動を多く取り入れ、グループで協力して活動する場を作るとともに、夜は、保護者のみでの交流会を行った。

### ③ 地域の特性を生かし、季節に応じたプログラムの開発

#### ア 草原の活用

夏編でのテント泊や開会式、アイスブレイキング、オリエンテーリング、秋編での遊びリンピックを草原で行い、自然に子どもたち同士が遊んだり、交流したりできるように工夫した。

#### イ トウモロコシの栽培

阿蘇はトウモロコシの産地であるため、夏編でトウモロコシの種を蒔き、秋編で収穫するというストーリー性を持たせるようにした。

#### ウ テント泊

実際に電気もテレビもない中で子どもと共に寝るという経験をさせることで、普段とは違う不便ではあるが、思い出に残る体験を味わえるようにした。また、今後自分たちだけでもテント泊ができるように、保護者に指導をしたうえで、実際にテントを立てるという作業を自分たちで協力しながら行わせた。

#### エ 自然散策

秋には、山での自然散策を取り入れ、地元のガイドさんに協力を依頼し、木の実を収穫したり、花や木等の名前を教えてもらったりしながら自然散策を行った。また、夜には、途中で拾った木の実や木の枝など使ったクラフト活動を取り入れ、活動を振り返るとともに、思い出を持ち帰る

ことができるようにした。

#### オ 野外調理

夏編では、阿蘇の夏野菜を使ったカレー作りを行い、海編では、地引網で捕った魚を使っの野外調理、秋編では、収穫祭と称しての阿蘇産のトウモロコシなどを使っのバーベキューを行った。

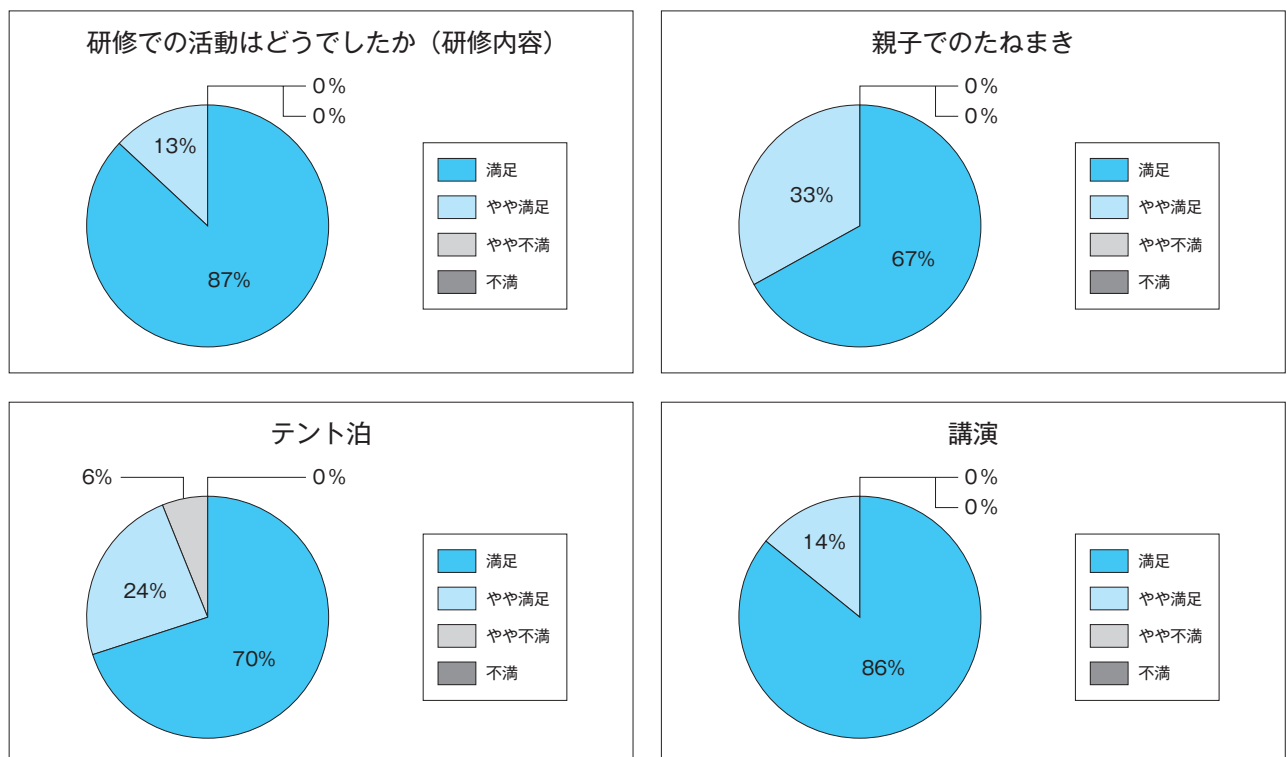


秋編でのクラフト活動

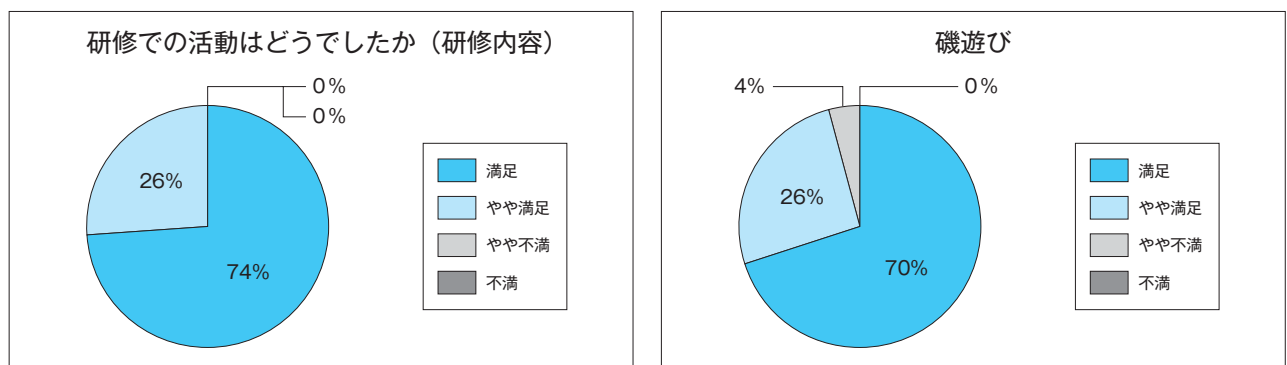
## 4 結果

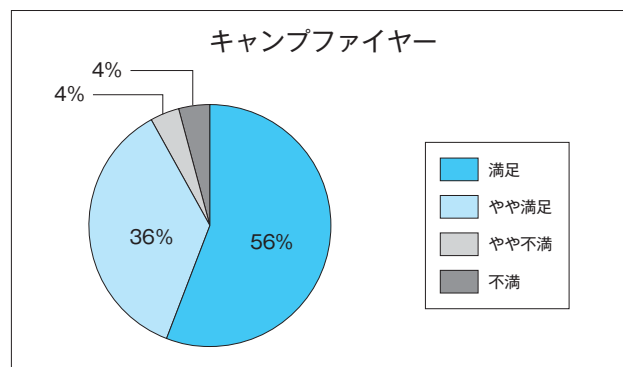
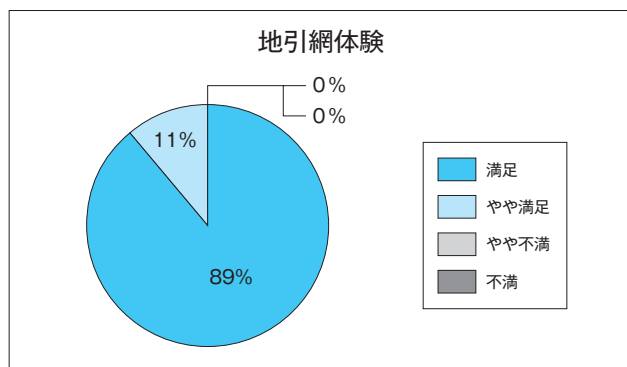
参加者の事後アンケート結果は以下のとおりである。

### 【夏 編】

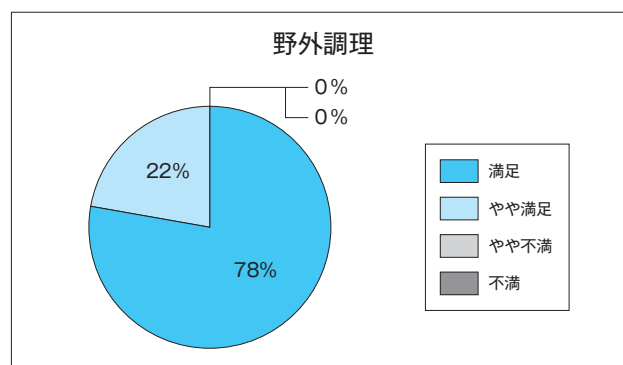
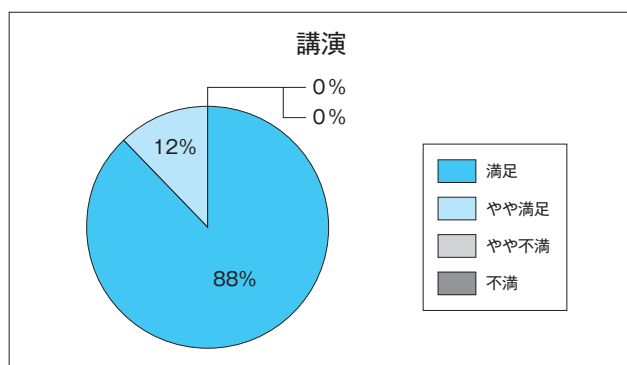
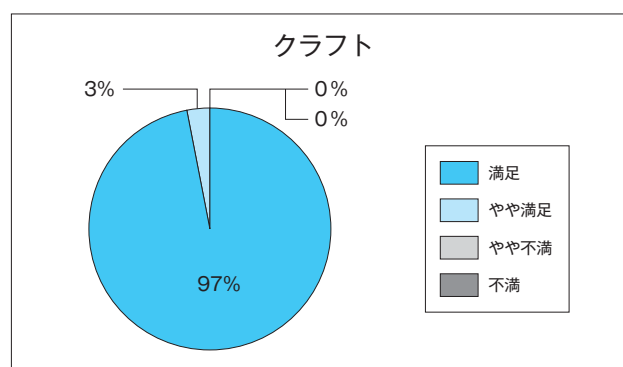
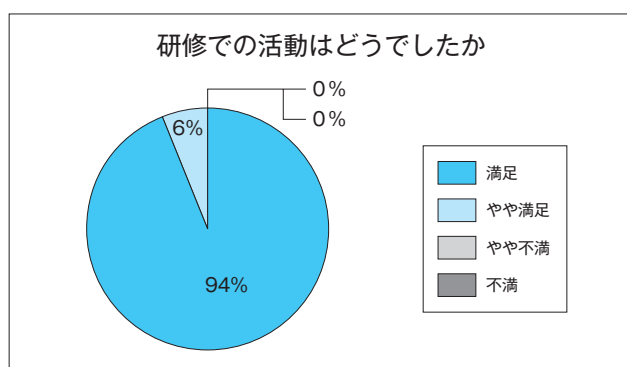


### 【海 編】





## 【秋 編】



## 【参加者の声】

- 子どものよさにも気づき、この子の悪いところばかり見るのではなく、よいところを見て、ひとまずありのままを認めたいと思える内容でした。
- 子どもが知らない子たちとも仲良く生き生きと体験できた姿を見て、とても貴重な体験だったと感じました。子どもにとってはもちろんのこと、親にとってもいろいろと勉強になる研修でした。
- 子どもにいろんなことを自分で体験させ、失敗や成功する経験を積ませることの大切さを身にしみて感じました。最初他の家族の方と接するのも恥ずかしそうにしていた子どももいつの間にかすっかりうちとけ、子どもたちなりに仲間づくりや友だちづくりをしてとても楽しそうに過ごしていました。親が心配するより子どもはやれば出来るんですね。これからこのような機会があれば親子ともに積極的に参加したいです。
- 子どもが魚を食べて「命をもらってる。この魚死んじゃってる。」とつぶやいていました。魚をとり、さばく中で命をいただいているということを感じていたよう



海編での野外調理

です。

- 自然の中での活動やテント泊など、親もほとんどしたことがなかったので、すごくいい体験です。子どもには幼い頃に様々な体験をたくさんさせたいと改めて思いました。
- 夏編秋編の2回をとおして、子どもとともに自分も成長したような気がしました。

## 5 成果と課題

### (1) 成 果

- ① 夏編でのテント泊や海編での地引網体験、夏編と秋編での農業体験など季節や場所の特性を生かしたプログラムを実施したことで、「貴重な体験を子どもとともにできた」などの感想が多く寄せられ、研修全体・研修内容に関する満足度はともに全て100%であった。
- ② 昨年度は、「子どもの違う表情が見られた」という感想が多かったが、今年度は「成長した」という感想も見られ、継続して実施している効果が出ていると考える。
- ③ 講演では、夏編・秋編ともに保護者からの評価が高く、幼児期のころから自然体験活動を経験させることの大切さや子どもたちに様々なことを経験させることの大切さなどを理解し、今後実践しようとする意欲が見られた。
- ④ プログラムでは、クラフト活動や種まき・収穫などの農業体験はとても好評であり、物を作ったり、育てたりする活動は親子で楽しめる活動であると考えます。また、トウモロコシがイノシシの被害にあったため、十分な収穫ができなかったが、農家の苦労やイノシシなど多くの生き物と共存していることなどを学習するよい機会となった。代替として行った栗拾いも好評であり、予想外の展開が好機につながった。
- ⑤ 県立施設を利用した海編では、施設を初めて利用した参加者がほとんどであり、こうした県立の施設がいくつかあることや家族やグループで利用できることなどを参加者が知る機会となり、施設の利用拡大につながったと考える。
- ⑥ ボランティアは、研修や経験のある人材、現役の看護師や看護師を目指す学生を活用し、事前研修も行ったことで、けがや事故無く3回とも安全に活動を行うことができた。



### (2) 課 題

- ① 今後は、子どもと保護者を分けて行うプログラムを増やすとともに、連携して行う施設を増やしていきたい。更なる幼児期に応じたプログラムの開発と保護者プログラムの開発が必要である。
- ② 海編では、台風の影響がやや残っている状態での活動となり、プログラムは全て予定どおり行うことができたが、キャンプファイヤーでは「少し怖かった」という意見もあったことから、どのプログラムにおいても安全面については万全を期して行う必要があると考える。
- ③ 事業に参加した幼児が継続して参加できるように、小学校低学年プログラムを開発していく必要があると考える。